平成21年度 第一回VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会議事録

日時：平成22年2月8日（月）13：30 ～ 16：15
会場：東京大学物性研究所 6階 第2会議室
出席者：吉信淳(会長、東大物性研)　雨宮健太(KEK)　雨宮慶幸(東大)　尾嶋正治(東大)　小野寛太(KEK)　鎌田雅夫(佐賀大)　木下豊彦(SPring-8)　木村昭夫(広島大)　組頭広志(東大)　小杉信博(分子研)　島田賢也(広島大)　辛埴(東大物性研)　菅滋正(大阪大)　大門寛(奈良先端大)　藤森淳(東大)　間瀬一彦(KEK)　宮原恒昱(日本女子大)
オブザーバー：柿崎明人(東大物性研)　中村典雄（東大物性研）松田巌（東大物性研）

配布資料

- 議事次第
- 平成21年度総会議事録（案）
- 東京大学アウトステーション物質科学ビームライン：BL07LSUについて
- ISSPワークショップ「真空紫外アンジュレータビームラインの高度化と物性科学」（冊子）
- VUV・SX高輝度光源利用者懇談会幹事会会則

報告・議事

1. 総会議事録の承認

平成21年度総会議事録が承認された。

2. SPring-8 共同利用状況、及びアウトステーションの現状報告

松田巌東京大学物性研究所准教授より、SPring-8 に高輝度軟 X 線アンジュレータービームライン及び 4 つの実験ステーションが完成し、昨年 10 月 9 日にその完成披露式典が催されたこと、今年度後期より共同利用を開始していることが報告された。また、松田准教授より時間分解軟 X 線分光実験ステーションの現状が、組頭広志東京大学准教授より 3 次元走査型光電子顕微鏡の現状がそれぞれ報告された。

3. VUV・SX 高輝度光源利用者懇談会の今後の活動について

懇談会の目的に関して、会則の確認が行われた。

第 1 章　総則

第 2 条　（目的）

本会は、東京大学が建設するＶＵＶ・ＳＸ高輝度光源施設の建設協力ならびにその利用研究計画に関わる情報交換の円滑化を図るとともに、会員相互の交流の促進を図り、放射光科学の発展に寄与することを目的とする。

会則を踏まえ、今後は当会の運営目的を東京大学におけるビームラインの利用・研究に特化するものとする。その一方で、軟 X 線を利用するユーザーを結ぶ全国組織の部会（仮称：放射光学会 VUV・SX 部会）の結成を放射光学会へ要望として提出し、早期実現をめざす。

上記を受け、幹事を現行の 23 名（含 会長）から 12 名（含 会長）に変更し、会則を以下のとおり改定する。

第 3 章　役員、および幹事

第 11 条　（役員）

本会に次の役員を置く。

1. **会長　　１名**
2. **幹事　　<u>１２名</u>（うち会長 1 名）**
3. **常任幹事　　４名**
4. **会計監事　　１名**

任期は、２年とする。但し会長を除き、重任を妨げない。

4. 平成22、23年度　会長・幹事選挙について

出席幹事の投票により、次期会長候補として辛　埴氏（東大物性研究所教授）が推薦された。また、吉信会長より選挙管理委員として、雨宮健太氏(KEK)、柿崎明人氏、吉信淳氏（以上、東大物性研）が推薦され、承認された。今後、次期会長の信任投票・幹事選挙が、選挙管理委員により今年度末までに執り行われる。また、会員各位へ、会則の改定・今後の活動予定等を周知し、当懇談会の目的を明確化する。同時に新会員の推薦依頼等を行う。

5. その他

柿崎明人物性研究所軌道放射物性研究施設長より、ISSP ワークショップ「真空紫外アンジュレータビームラインの高度化と物性科学」を昨年12月18日に開催し、活発な議論が行われたことが紹介された。

柿崎明人施設長、辛埴物性研究所教授より、助教募集（軌道放射物物性研究施設・つくば分室、辛研究室）の案内が行われた。

（議事録　事務局）